

- お買い上げありがとうございます。
- ご使用前に必ずお読みいただき大切に保管してください。
- この商品で熱感知器の点検を行うには、消防設備士(甲種第4類・乙種第4類)または消防設備点検資格第2種の資格が必要です。

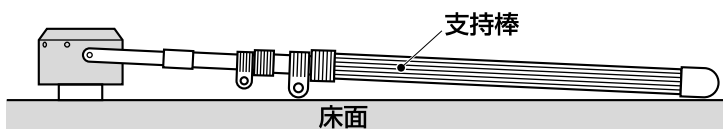
安全上のご注意 ■必ずお守りください

警告

- 作業中に充電部や活線に触れないでください。感電などのおそれがあります。
- 支持棒の絶縁部(灰色)にやぶれなどが無いことを確認してください。破損していると感電などのおそれがあります。
- 高所作業となる場合、転倒・落下などの危険があります。足場の確保など安全に作業できるようにご注意ください。

注意

- 点火した状態の試験器を仮置きするときは、可燃物のない安定した床面などに置いてください。火災のおそれがあります。



- 使用しないときは、必ずハクキン火口を消火してください。火災のおそれがあります。
- 外筒・燃料タンクなどは、熱くなっていますので素手でさわったり、熱に弱い物に直接当てないようご注意ください。やけどをしたり、他の物品を破損するおそれがあります。
- 機器を分解したり、当社の支持棒以外に取り付けたり、改造はしないでください。故障の原因となります。
- 着火中は、ハクキン火口に可燃物が触れないように注意してください。火災のおそれがあります。

注 ●加熱試験器ヘッド(BVT92011K)には、支持棒はセットされていません。

付属品

- 取扱説明書(本紙)…1枚
- 収納袋……………1コ

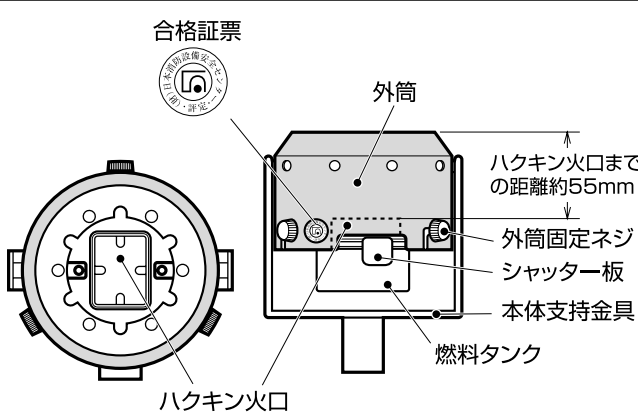
ご使用前に

- この商品は熱感知器(差動式・定温式・補償式スポット型)の加熱試験をする機能を持っています。

使用上のご注意

- 出荷時に試験をしていますので、開梱時ベンジンのおいがする場合があります。
- この試験器は(財)日本消防設備安全センターの性能評定品です。(性能評定番号 評14-124号)
- この試験器は、製造年月から起算して10年ごとに校正を行う必要があります。
- 校正のときは、弊社営業所までお問い合わせください。
- ご使用後は、外筒・燃料タンクの温度が下がったことを確認してから子供の手の届かないところに保管してください。
- ご使用後は、ハクキン火口にホコリが溜ったりしないように、必ず付属の収納袋をかぶせて保管してください。
- ご使用後は、支持棒を縮めてください。
- 傾斜した天井に取り付けられた定温式スポット型感知器に使用すると、感熱部に熱が伝わりにくく、作動時間が極端に長くなる場合があります。

各部のなまえ



お手入れ

外筒・燃料タンクが汚れた場合は、次の方法でお手入れください。

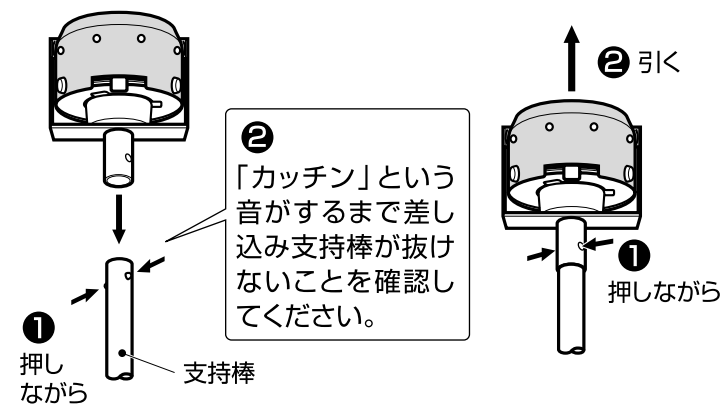
- ふだんのおそうじは… やわらかい布でふき取ってください。
 - 汚れが目立つときは… 中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。
- [化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。]

- 注 ●ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、使用しないでください。

試験器の取り付け・取りはずしかた

取り付けるとき

取りはずすとき



支持棒の長さ調整・固定のしかた

注 ●加熱試験器ヘッド(BVT92011K)には、支持棒はセットされていません。

- 注 ●注油しないでください。支持棒の固定力が弱くなります。
- ゆるめすぎないでください。支持棒が勢いよく縮まり危険です。



※3段伸縮自在の最長約3515mmとなっています。(約1485mm～約3515mm)

ハクキン火口の取り替えについて

点火しにくくなった場合は、加熱試験器火口(BV 9913)(別売)を消火を確認のうえ取り替えてください。

使用方法

注 ●燃料は白金カイロ用ベンジンを使用してください。

- ##### 1 燃料タンクを取りはずし、燃料タンク内の綿がしめる程度に、ベンジンを注入する(燃料タンクの容量は約40ccです。)

注 ●入れすぎるとこぼれ、着火するおそれがあります。
- ##### 2 燃料タンクを取りつける(ガタツキがないことを確認してください。)
- ##### 3 天井高さに合わせ支持棒を調整する

注 ●「支持棒の長さ調整・固定のしかた」を参照ください。
- ##### 4 ハクキン火口に点火する

●火力が安定するまで、約10分かかります。

① シャッター板を一度引いて、左に移動させ、押し込む。

② 試験器を斜めに倒して、マッチまたはライターで点火する。(やけどしないよう注意してください。)

注 ●約4時間の試験ができます。

●火力が弱ってきたときは、消火を確認後①、②の順でベンジンを補給して再度点火してください。

●着火すると、外筒・燃料タンクなどは、熱くなっていますので素手でさわったりしないでください。やけどをするおそれがあります。
- ##### 5 試験をする

判定基準

感知器	感知器の作動時間	感知器の種類		
		特種	1種	2種
差動式スポット型	—	30秒以内		
補償式スポット型	—	30秒以内		
定温式スポット型	40秒以内	60秒以内	120秒以内	

注 ●ただし定温式スポット型については、周囲温度と公称作動温度との差が50℃を越える場合は、作動時間を2倍にすることができます。(点検試験基準による。)

●作動を確認後、速やかに加熱試験器を取りはずしてください。加熱しすぎると感知器が破損するおそれがあります。
- ##### 6 ハクキン火口を消火する

●シャッター板を一度引いて、右に移動させ、押し込む。(外筒から少し出た状態で止まりロックがかかります。)

注 ●試験終了後は、必ず火口の消火を確認してから、保管してください。